

規模拡大に意欲的な担い手農家の指標となる 水田作経営モデルを作成しました

石川農林総合事務所

白山市、野々市市では地域農業の担い手と呼ばれる経営体への農地集積が進んでおり、特にJA松任管内では、経営面積が30ha以上の農家が19戸もいるなど、経営の大規模化が目立ってきています。当事務所でも、これら担い手への農地集積を支援するため、市やJAと連携して「白山石川地区担い手支援チーム会議」を開催して、担い手の育成に係る意見交換と情報の共有化を図っています。

一方で、経営面積が30haを超える大規模経営では、雇用労働力の確保や作付体系の変更など、これまでの経営内容や目標を見直す必要が生じます。しかし、見直しの参考となる経営指標がこれまで無かったため、経営面積をこれ以上拡大するべきか判断に迷っている担い手もいました。

このため当事務所では、JA松任及び農林総合研究センターと協力して、経営面積規模別に最適な作付体系と労働力を踏まえた「水稻+大豆+大麦」の水田作経営モデルを作成しました。経営面積は30haを基本とし、今後も担い手農家への農地集積が進むことを想定して、50、70、100ha規模を設定しました。さらに、近年の米価低迷に対応した所得確保や従業員の周年雇用対策として、水稻農家でも取り組み易い白ねぎ栽培を導入した「水稻+大豆+白ねぎ」の複合経営モデルも作成しました。これらのモデルは、JA松任の「第6次地域農業振興計画」に掲載され、全組合員に配布されています。

今後は、このモデルを担い手が経営規模拡大を進める際の判断材料にしてみらうとともに、JA等の関係団体と連携して、農業経営者として必要な雇用対策・人材育成・企画力等の知識を習得する研修会を開催し、地域農業の中核となる大規模農家の育成を図ってまいります。

項目	経営面積30ha(現状)			経営面積50ha			経営面積70ha			経営面積100ha		
	目標農業所得 1,000万円			目標農業所得 1,500万円			目標農業所得 2,700万円			目標農業所得 3,600万円		
	水稻 20ha	大豆 10ha	大麦 10ha	水稻 30ha	大豆 10ha	大麦 10ha	水稻 50ha	大豆 20ha	大麦 20ha	水稻 70ha	大豆 30ha	大麦 30ha
単収 (kg/10a)	540	180	350	540	180	350	540	180	350	540	180	350
農産物売上 (千円)	23,400	1,188	1,050	35,100	1,188	1,050	58,500	2,376	2,100	81,900	3,564	3,150
農業所得 (千円)	5,029	4,100	1,261	9,790	4,100	1,261	15,018	9,722	2,754	19,137	13,592	3,728
合計所得 (千円)	10,390			15,043			27,494			36,457		
労働力	家族2人、臨時雇用5人			家族3人、臨時雇用6人			家族3人、臨時雇用19人			家族3人、常時雇用1人、臨時雇用25人		

経営面積別の水田作経営モデル

問い合わせ先：石川農林総合事務所農業振興部
(076-276-0371)